



平成31年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年10月11日

上場会社名 株式会社 Olympicグループ 上場取引所 東
 コード番号 8289 URL <http://www.olympic-corp.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木住野 福寿
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼総務部長 (氏名) 木村 芳夫 TEL 042-300-7200
 四半期報告書提出予定日 平成30年10月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第2四半期の連結業績（平成30年3月1日～平成30年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	52,737	△2.3	299	△35.9	256	△37.7	147	△48.8
30年2月期第2四半期	53,983	△1.2	467	△22.9	412	△20.6	287	△15.6

(注) 包括利益 31年2月期第2四半期 240百万円 (△6.3%) 30年2月期第2四半期 257百万円 (△37.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	6.40	—
30年2月期第2四半期	12.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年2月期第2四半期	67,969	24,126	35.5	1,050.27
30年2月期	68,739	24,229	35.2	1,054.78

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期 24,126百万円 30年2月期 24,229百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	—	—	—	15.00	15.00
31年2月期	—	—	—	—	—
31年2月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成31年2月期の連結業績予想（平成30年3月1日～平成31年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	108,000	1.1	700	187.2	600	400.0	350	—	15.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年2月期2Q	23,354,223株	30年2月期	23,354,223株
② 期末自己株式数	31年2月期2Q	382,806株	30年2月期	382,630株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年2月期2Q	22,971,543株	30年2月期2Q	22,971,727株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。
- ・業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益の回復や雇用環境の改善などにより、緩やかに回復基調を維持しているものの、記録的な猛暑や豪雨などの自然災害により、個人の消費意欲が一時的に冷え込む動きとなりました。

また、世界経済の状況は、米国経済が堅調に推移しているものの、金融市場の変動の影響や米中貿易摩擦問題により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

小売業界におきましては、同業他社だけでなく、EC市場の拡大を始めとする異業種・異業態との競合、価格競争が激化しており、人手不足に伴う人件費の増加や物流コスト上昇等のリスクに晒され、依然として厳しい経営環境が続いております。

こうした環境のなか、当社グループでは「フード」「ディスカウント」「専門店」の3つの業態を柱として、ニーズの変化や地域特性に応じた様々な店舗スタイルで、臨機応変な事業展開により、競争力を強化することを継続してまいりました。

この方針のもと、専門店事業におきましては、引き続き独自商品の開発と専門知識を持った人材育成による販売力強化に努めております。

自転車専門会社の㈱サイクルオリンピック（店舗ブランド「サイクルオリンピック」）では、自社開発商品として、シリコンを用いた特殊機構によりペダルを漕ぐ力を無駄なく使い切り、「電池のいらぬアシスト自転車」を実現する画期的なギア「FREE POWER」の取り扱いを開始し、今年3月の発売以来大変多くのお客様にご好評いただいております。メディアで取り上げられる機会の増えた6月以降は、ほとんどの品番が品切れになるなど、大変ご迷惑をお掛け致しましたが、8月以降は入荷・販売ともに順調に推移しております。

同ギアを装着した当社オリジナル自転車の販売に加えて、他社製自転車に装着することもできることから、自転車メーカー等への提供も含め、今後多くの需要を開拓できるものと考えております。

また、この「FREE POWER」を体感できる初のコンセプトショップ「フリーパワーショップ国分寺」を8月に開店いたしました。

ペット専門会社の㈱ユアペティア（店舗ブランド「Your Petia」）では、当社グループの総合動物病院「動物総合医療センター」との連携強化により、獣医師の指導のもと、ご家族の一員であるペットに関する全てを安心してお任せいただける企業となるように努めるとともに、ご好評をいただいている自社開発の犬用ペットフード「パルトシュシュ」ブランドに新たに猫用のラインナップを加えたほか、お手頃な缶詰フード「THE CAT」の販売も始めております。

DIY・ガーデニング専門会社の㈱おうちDEPO（店舗ブランド「おうちDEPO」）では、「プロ・職人さんにとって便利でお得な店、プロ・職人さんの求める品揃えを追求し続けるお店」を合言葉に、品揃え、価格、品質、サービスに徹底的にこだわり続け、お客様ごとのニーズに合わせたきめ細やかな対応がご評価をいただき、複数の店舗をご利用されるお客様が着実に増加するなど、店舗ブランドの知名度向上とともに、業績も順調に伸長しております。

靴専門会社の㈱シューズフォレスト（店舗ブランド「Shoes Forest」）では、「家族全員でご来店いただける店」をコンセプトに、幅広い品揃えと、お買い物していただきやすい雰囲気のお店づくりを目指して、スタッフが商品知識だけでなく高度な接客技術を身につけるよう努力してまいりました。

また、商品開発におきましても、紳士靴、婦人靴、スポーツシューズ、子供靴の全域にわたって一層の充実を図っております。

食品部門におきましては、さらにおいしく、安全な惣菜やお弁当を開発・生産するために新設した食品工場の活用を強化し、店内加工食品の製造プロセスの見直し、店舗における要員シフトの最適化をさらに進め、より一層のローコストオペレーションに努めております。

また、4月には「オリンピックおりーぶ志村坂下店」において、食品フロアを中心とした大規模改装を実施し、開放的で気持ちよくお食事が出来るフードコート「PICCOLY」、自家焙煎の高品質なコーヒーを提供するコーヒーショップ「GRAIN COFFEE ROASTER」、ソムリエ資格保有者が常駐し多品種のワインを取り扱う専門店「Olympic CELLAR」を配した店舗フォーマットへ転換いたしました。

ディスカウントストア部門におきましては、店舗の立地に即して売場面積の最適化を進めてゆくことで、さらなる店舗経営効率の向上を目指すとともに、人材配置の総合的な見直しを進め、店舗における販売力の強化を図っております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高に営業収入を加えた営業収益は、連日の猛暑や台風の影響に加え、ディスカウント部門及び(株)アバンセによるスーパーマーケット部門の回復が遅れていることもあり、527億37百万円(前年同四半期比2.3%減)となりました。経費面につきましては、ローコストオペレーションを推進してまいりましたが、営業収益のマイナスを補うまでには至らず、営業利益は2億99百万円(前年同四半期比35.9%減)、経常利益は2億56百万円(前年同四半期比37.7%減)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億47百万円(前年同四半期比48.8%減)となりました。

なお、当社グループは、小売事業の割合が高く、小売事業以外の事業に関しては重要性が乏しいと考えられるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ7億69百万円減少し、679億69百万円となりました。これは主に現金及び預金、売掛金、投資その他の資産における投資有価証券が増加した反面、商品並びに敷金及び保証金が減少したことなどによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ6億65百万円減少し、438億43百万円となりました。これは主に買掛金並びに長期借入金が増加した反面、短期借入金並びに社債が減少したことなどによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億3百万円減少し、241億26百万円となりました。この要因は、四半期純利益を計上した反面、配当金の支払いにより利益剰余金が減少したこと及びその他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の見通しにつきましては、平成30年2月期決算発表時(平成30年4月16日)に公表いたしました平成31年2月期の通期連結業績予想を修正しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,256	3,578
受取手形及び売掛金	675	847
商品	11,910	11,316
その他	2,031	1,774
貸倒引当金	△22	△10
流動資産合計	17,851	17,506
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,784	12,548
土地	14,806	14,809
その他(純額)	2,316	2,266
有形固定資産合計	29,906	29,624
無形固定資産	1,242	1,252
投資その他の資産		
敷金及び保証金	14,936	14,777
その他	4,767	4,783
投資その他の資産合計	19,703	19,561
固定資産合計	50,852	50,437
繰延資産	34	24
資産合計	68,739	67,969
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,062	9,942
短期借入金	18,429	17,148
未払法人税等	103	109
賞与引当金	267	269
その他	4,457	3,327
流動負債合計	32,319	30,797
固定負債		
社債	994	585
長期借入金	9,399	10,666
資産除去債務	480	484
その他	1,316	1,310
固定負債合計	12,189	13,046
負債合計	44,509	43,843
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,946	9,946
資本剰余金	9,829	9,829
利益剰余金	4,200	4,003
自己株式	△292	△292
株主資本合計	23,684	23,486
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	545	639
その他の包括利益累計額合計	545	639
純資産合計	24,229	24,126
負債純資産合計	68,739	67,969

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	50,686	49,686
売上原価	35,452	34,484
売上総利益	15,234	15,202
営業収入	3,296	3,050
営業総利益	18,531	18,252
販売費及び一般管理費	18,063	17,953
営業利益	467	299
営業外収益		
受取利息	20	18
受取配当金	14	15
債務受入益	32	40
貸倒引当金戻入額	10	12
その他	34	33
営業外収益合計	112	119
営業外費用		
支払利息	152	145
その他	15	17
営業外費用合計	168	162
経常利益	412	256
特別損失		
固定資産除却損	17	16
減損損失	26	11
特別損失合計	43	28
税金等調整前四半期純利益	368	228
法人税、住民税及び事業税	59	62
法人税等調整額	21	19
法人税等合計	81	81
四半期純利益	287	147
親会社株主に帰属する四半期純利益	287	147

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
四半期純利益	287	147
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△29	93
その他の包括利益合計	△29	93
四半期包括利益	257	240
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	257	240

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記等)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、「小売事業」の割合が高く、開示情報としての重要性が乏しいことから、セグメント情報の記載を省略しております。